



【学校教育目標】自ら考え、判断し、人と共により良く生きようとする心豊かな子供の育成

「えがおで協力 みんなかがやけ小ヶ倉っ子」

日曜日（18日）に実施した運動会には、多くの方の御参観をいただき、誠にありがとうございました。心配された天候も、見事に持ち直し、さほど暑さもない絶好の運動会日和の中で開催することができました。大きなけががなく、無事に終了できました。どの子もその子なりの精一杯を出していたように思います。これもひとえに、保護者の皆様の御協力のお陰だとありがたく思っています。

さらに、お疲れのところ、最後のテント等の片付けにお力をお貸しいただき、大変感謝しております。ありがとうございました。



ところで、運動会は毎年当たり前のように行われる学校の行事ですが、なぜ運動会をやるのでしょうか。小ヶ倉小学校では、次のような願いを込めて運動会に向けて取り組んでいます。

1「頑張る（勝つために全力を尽くす）」

「頑張る」ことを、身をもって知る「頑張る」という言葉は、私たちの生活の中でよく使われます。それゆえ安易に使ってしまったり、それほど頑張ってもいないのに「頑張りました」と言ったりする場面が見られます。そんな子供たちに真の意味で「頑張る」ことを、身をもって体験してほしいと願っています。学校ではこの運動会に向けて「全力を出し切る」をキーワードにして取り組んできました。自分のもっている力を精一杯出す。仲間と共に知恵を出し合い力の限りやり抜く。そんな体験が子供たちを大きく、たくましく成長させると期待してのことです。

2「優しい心」を耕す

真に頑張ろうとすればするほど、そこには苦しさもあるはずです。人には弱さがあるので、そこから逃げたくなる気持ちと戦わなくてはなりません。そんなときに支えてくれるのが「仲間」であり「家族」です。そして私たち「教職員」もその一助となるように努めています。仲間を励まして一緒に頑張ったり、反対に自分があきらめてしまいそうな時に、仲間や家族の励ましのお陰で頑張り切れたりします。そういった人と人のつながりが一人一人の子を高め、感謝の気持ちへと発展させていきます。「感謝」の気持ちは、相手の立場に立って考えられる優しさがあるからもちことができます。運動会に向けて取り組む中で、仲間を思いやり、感謝する体験をし「優しい心」が耕されていくことを期待しています。

3「自分・仲間の良さ」を認識する

上記で述べたような取組の中で、子供たちは大きく成長しますが、当の本人はそのことにはなかなか気付けないものです。そこで頑張りや優しい姿をクラスの仲間や担任、家族がきちんと価値づけることで「自分」や「仲間」の良さを自覚できるようになります。自分や仲間の良さを認識することで、以前よりも、もっと自分のことや仲間のことを好きになってくれることを期待しています。

いかがでしょうか。まだまだ不十分なところはあったかもしれませんが、そのような「心」が少しは形となって表れた運動会だったのではないのでしょうか。当日の皆様方の大きな声援や温かい拍手が、子供たちを育てたことに感謝いたします。

今後とも御支援よろしくお願いいたします。